

第五十回 三溪園投句箱の部 受賞者 入賞作品一覧(二〇二五年度)

《一般の部》

横浜市長賞	しなりたる庭師の梯子冬隣	高橋 貴彦(たかはしたかひこ)
三溪園理事長賞	三百年の煤の匂ひや春暖炉	豊田 凡(とよだぼん)
横浜俳話会会長賞	茅葺の軒の断面冴返る	佐藤 久(さとう ひさし)
三溪園園長賞	竹垣の男結びや冬椿	久布白 文子(くぶしろ ふみこ)
三溪園賞	黒南風へ書院二方を開け放つ	桑本 螢生(くわもと けいせい)
三溪園賞	蜘蛛の団に捕へられたる露仏かな	守谷 一剣(もりや いっけん)
三溪園賞	大池の水尾崩しゆく春疾風	日高 朝代(ひたか あさよ)
横浜俳話会賞	夜桜が月の光で息をする	米満 仁紀(よねみつ のりとし)
横浜俳話会賞	古民家に煙の匂い梅開く	広田 輝子(ひろたてるこ)
横浜俳話会賞	錦秋の池にしづもる塔の影	石川 桃瑪(いしかわとうま)
入選	風光る小山の如く大藁屋	増田 信雄(ますだ のぶお)
入選	近づけば鯉の口浮く半夏生	三枝 侑子(さえぐさ ゆうこ)
入選	ぽつたりと地べたに咲けり落ち椿	江尻 久子(えじり ひさこ)
入選	吾子に手をひかれてにじむ紅葉かな	大淵 妙子(おおぶち たえこ)
入選	木のベンチ選びて座る春日向	草野 早苗(くさの さなえ)
入選	連れ合いの呼び声やさし春の鴨	早坂 文子(はやさか あやこ)
入選	孫と見る景色全てが夏休み	高橋 のりこ(たかはし のりこ)
入選	若竹の皮脱ぎきれず天を突く	水野 剛(みずの たけし)
入選	落椿吐息のつもる根方かな	長谷部 幸子(はせべ さちこ)
入選	恋猫の恋する素振り見せず過ぐ	藤 英樹(ふじ ひでき)
入選	本堂に蟻ひと粒の斜光かな	田中 まぎぬ(たなか まぎぬ)
入選	琴ひびく三溪園の紅葉かな	谷口 一好(たにぐち かずよし)
入選	水仙の低く香るや車椅子	窪田 ますみ(くぼた ますみ)
入選	剥落の仏を撫でる春の風	小此木 節子(おこのぎ せつこ)
入選	巖すべる光や音や春の水	橋爪 あゆみ(はしづめ あゆみ)
《年少者の部》		
小学生	すいれんをめいろみたいにおよぐカメ	船橋 宇衣(ふなはし うい)
小学生	銀杏の葉天然じゅうたんふりつもる	大久保 由良(おおくぼ ゆら)
小学生	かもたちがかわいいあしでおでむかえ	中田 慶(なかた けい)
小学生	雨上がり緑のにおいすいこんで	平田 芽衣(ひらた めい)

二〇二四年十一月一日〜二〇二五年十月三十一日の期間 投句箱に寄せられた七九五句から各賞を決定しました。